# 学校教師学部 カリキュラム・ポリシー

学校教師学部は以下の方針でカリキュラムを編成する。

1．学校教師学部の授業は教養科目、教育専門科目、専修教科科目そして小学校免許科目に分類される。

2．教養科目に含まれる「総合基礎科目」「総合共通科目」は社会に貢献するために必要とされる基礎力と教養を身につける科目である。

3．学部共通科目は学校教師学部が独自に開講する教養科目である。総合科目と並行して履修し、教師にとって必要な自然と社会に対する広い視野と深い知識を身につけることをねらいとする。

4．教育専門科目では教師に求められる資質、教育の理論と技術、そして全てを総合した実践方法を学ぶ。１・２年次は、授業により資質・理論・技術を学ぶと同時に、教育実践演習Ⅰ・Ⅱでは近隣の学校で学習支援を行い、教育の実践経験を積む。３年次では教育実践演習Ⅲとして、附属校において実際の授業を１コマ担当し、４年次での教育実習に備える。また学校教師演習は、卒業論文に向けて教育に関する専門的な内容を学ぶ選択科目である。

5．専修教科科目は中学校・高等学校の教員免許取得予定の教科に関する専門的知識・技術を習得する科目である。教科の専門的内容を学ぶと同時に、教育法・教材研究・授業研究に関する授業において、実際に授業を行うための知識や技術を学ぶ。

6．小学校免許科目に含まれる「初等教職科目」「初等教科科目」は小学校教諭１種免許の取得に必要な科目であり、同時に初等教育コース学生の必修科目となる。小学校の授業に必要な理論と技術を学び、教育法では模擬授業により実践的な学修を進める。「初等選択科目」では英語教育やＩＣＴ教育など、現代の小学校教諭に必要な資質・ 技術を磨く。

# 看護学部カリキュラム・ポリシー

看護学部は以下の方針でカリキュラムを編成する。

1．生命にかかわる専門職としての幅広い教養と豊かな人間性の涵養、高い倫理的感受性を高めるために多様な教養科目を【基礎分野】に置く。

2．グローバル社会で活躍できる英語力、国際感覚を高めるための英語科目を【基礎分野】に置く。

3．医療現場における看護に必要な情報を的確に活用するためにＩＴスキルを獲得できる科目を【基礎分野】に置く。

4．看護の対象としての人間の健康と疾病を科学的根拠に基づいて理解するために、人体の構造と機能、疾病の成り立ちと回復の促進について学ぶ科目を【専門基礎科目】に置く。

5．看護学の最新の知識と技術を修得するために、各看護学分野の対象の特徴、看護の方法に関する科目を【専門分野Ⅰ】【専門分野Ⅱ】に置く。

6．身につけた知識や技術を統合し、問題解決と新たな看護の創造につなげていく能力や自己研鑽し続ける能力を育成するために、救急看護論、災害看護論などのスペシャリティーの高い科目を【統合分野】に置く。

7．地域包括ケアシステムの中で、地域の医療専門職と連携・協働し、看護の専門性を発揮できるための公衆衛生学や保健医療福祉行政学などに関する科目を【専門基礎分野】の[健康科目]ならびに【保健師専門分野】に置く。

# 総合経営学部カリキュラム・ポリシー

総合経営学部は以下の方針でカリキュラムを編成する。

1．「総合基礎科目」と「総合共通科目」を通して、現代社会を生き抜くための技能と教養を身に付け、あわせてグローバル化するビジネス社会に対応できる深い識見を養う。

2．専門教育は、ビジネスの場で求められるコミュニケーション能力と問題解決能力を育むことを主眼とし、特に実践力の涵養を図るため、将来の進路目標に沿ってビジネスコース、企業会計コース、起業コースを設け、コースごとに資格取得を重視した実践的な学修科目を配置する。

3．専攻科目は、まずA群科目として経営学の基本科目を配し、その上で経営専門科目をB群科目として配する。このB群科目については、経営学の理論科目をＢⅠ群、会計学関連科目をＢⅡ群、商業・金融関係科目をＢⅢ群に区分し、さらに専門関連科目をC群として置き、専門分野の体系的、重点的な学修が行なえるようにしている。

4．３年次以降は、少人数双方向型の演習科目の履修により、特定テーマを巡る報告・討論を通して、主体的に考究・発信する能力、コミュニケーション能力を伸ばし、学問研究の方法を修得する。

# グローバルマネジメント学部カリキュラム・ポリシー

グローバルマネジメント学部は以下の方針でカリキュラムを編成する。

1．高い英語コミュニケーション能力とコンピュータ処理活用能力を備えた企業人として、現代の国際社会、情報社会で活躍できる人材を育成するため、4年間の学士課程を通じ、「総合基礎科目」と「総合共通科目」などを履修するとともに、専攻科目A群の英語関連、B群の情報関連、C群の経営学関連に関する専門分野についてそれぞれ規定以上の科目を履修する。

2．個々の学生が有している能力を最大限に引き出すため、少人数制と双方向型授業形態を提供する。そして、学生が特定のテーマに沿った課題において、自ら問題意識を持って学問的探求や考察が行なえるように、日本語や英語を駆使したアカデミックスキルを養う。

3．英語キャリアコースでは、「使える英語」の修得に加えて、グローバル人材に求められている、チャレンジ精神、異文化理解、日本人としての自覚といった資質を磨くために、５か月間のイギリス留学を必修とする。その後、英語学やコミュニケーション論、異文化理解論を専門科目として履修し、英語に関する学問的知見を広める。

4．ＩＴキャリアコースでは、社会に出て即戦力として活躍できるようにするため、情報関連の資格取得をめざすとともに、情報の専門分野として、ネットワーク構築や情報科学、経営情報、クロスメディアデザインなどの領域に関する知識を学修し、情報に関する学問的知見を広める。

# 観光ビジネス学部カリキュラム・ポリシー

観光ビジネス学部は以下の方針でカリキュラムを編成する。

1．豊かな人間性とともに高い専門的知識・能力を備え、社会に貢献できる人材を養成するため、１年次から「総合基礎科目」「総合共通科目」などを履修するとともに専攻科目を通じて専門領域における基本的知識を系統的に学修することにより、４年間の学士課程を通じ、複合的な分野が交錯する観光ビジネスの特性を踏まえた様々な学問領域にわたる知識と教養を修得する。

2．「総合基礎科目」では、国際的な観光交流の促進のために必要な英語をはじめとする外国語科目、多様化する観光情報の発信・受信に資する情報科目を履修し、「総合共通科目」では、異文化理解の促進のために必要な海外および自国の歴史・社会・経済などを広く学修する。

3．専門教育では、観光ビジネスに不可欠な基本的知識を修得するための基幹科目であるＡ群科目、観光ビジネスの実務に直結する専門性の高い科目および様々な資格取得を支援する資格関連科目により構成されるＢ群科目、外国文化・ホスピタリティ・経営など知識と実務能力を身に付けるＣ群科目、主体性の伸長に重きを置いた演習科目を設定し、専門的知識を修得する。

4．少人数・双方向型の演習科目を１年次から設定し、コミュニケーション能力、問題解決力、表現能力、知識の活用能力、論理的思考力、課題探求力など、観光ビジネスにおいて必須となる汎用的な能力を育成するとともに、社会人のための基礎能力を備えることを目的としたキャリア教育を実施する。